

平成26年6月2日
東京都病害虫防除所

平成26年度 病害虫発生予察情報 注意報 第1号

病害虫名： 果樹カメムシ類
(チャバネアオカメムシ及びクサギカメムシ)

対象作物： ナシ、ブドウ 等

1. 注意報の内容

- (1) 対象地域 都内全域
- (2) 発生量 多

2. 注意報発令の根拠

- (1) 東京都福祉保健局が発表した2013年におけるスギ及びヒノキの飛散花粉数は、2003年から2012年までの10年間で3番目に多く、平年の1.8倍であった。前年のスギ・ヒノキ飛散花粉数に基づくチャバネアオカメムシにおける越冬世代の発生量予測式によると、予察灯誘殺数は平年の2.5倍である480頭と予測される。
- (2) チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺数は、5月1～2半旬では平年並、3半旬～5半旬は平年よりやや多く推移した。6半旬からは急増し、平年の4.9倍となり多発年であった2006年および2012年並みとなった(図1)。
- (3) 5月1半旬～5半旬のチャバネアオカメムシ予察灯誘殺数は28頭で平年の4.0倍と多く、クサギカメムシも平年の2.3倍と多かった。
- (4) 定点に設定したサクラ樹における飛来数調査によると、5月の平均目撃数はチャバネアオカメムシが8.7頭、クサギカメムシが5.3頭と、いずれの種類も2007年の調査開始以降最も多かった(図2)。

3. 防除対策

今後は春に結実したサクラやクワなどの実が次第に減少するため、果樹カメムシ類が果樹園に飛来する危険性が高まる。

- (1) 早期に袋がけを行う。果実が肥大して袋に接するまでは効果が高い。
- (2) 多発した2012年の調査によると、多目的防災網(目合9mm、クロス入り)の防除効果が非常に高いことから、設置園ではできるだけ早く展張する。果樹カメムシ類の飛来が始まっている場合、設置後できるだけ早く表1を参考に殺虫剤を散布する。
- (3) 果樹園への飛来が認められたら、表1を参照して薬剤を散布する。

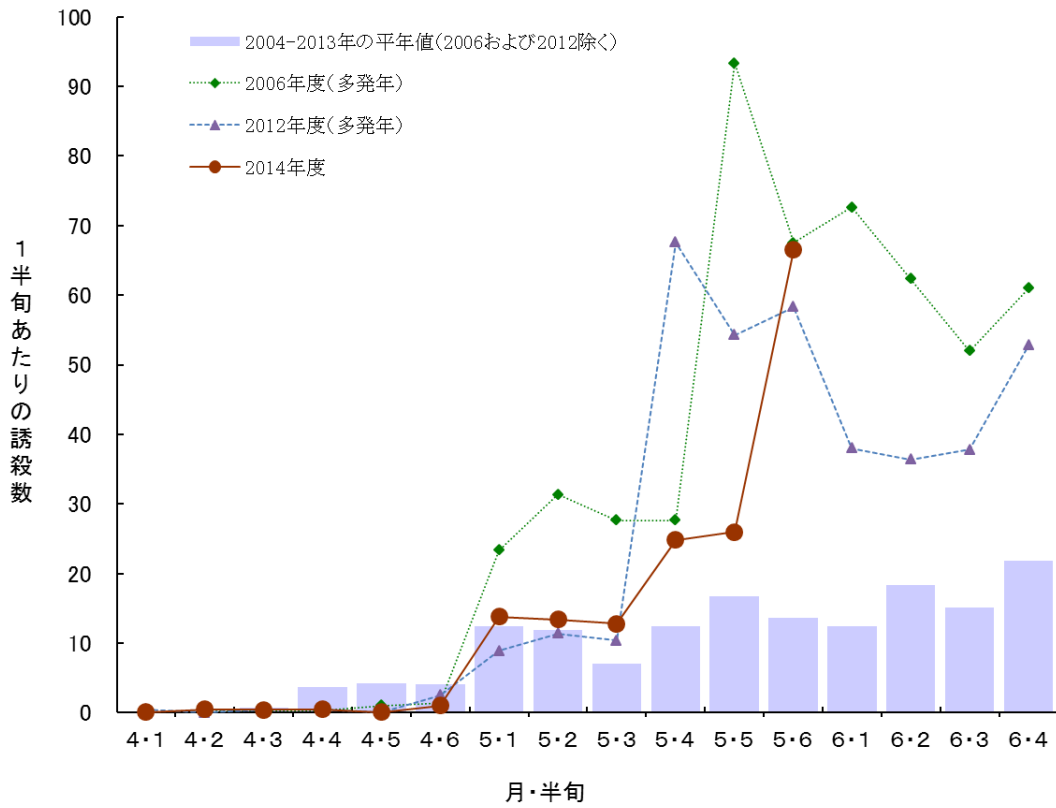


図 1 . チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺数の推移(立川市)

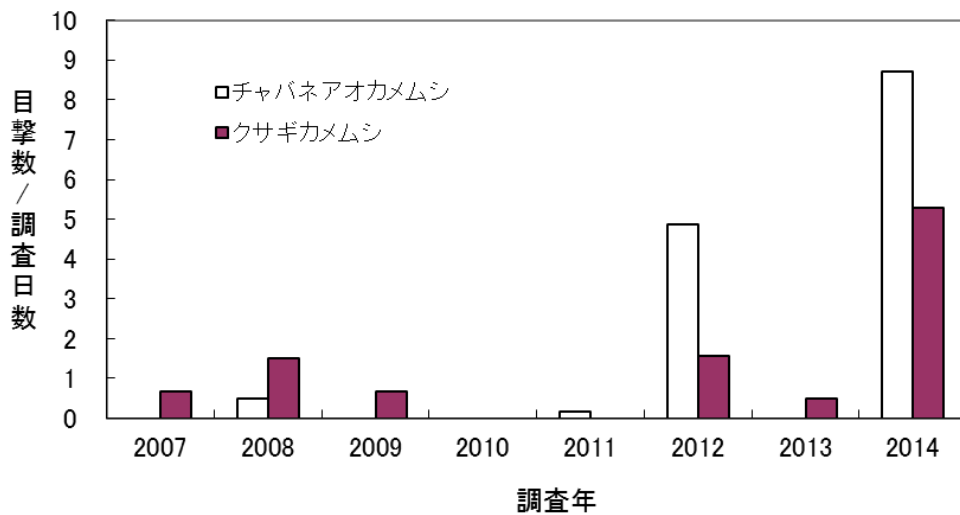


図 2 . 5 月のサクラにおける果樹カメムシ類目撃数(立川市)

表 1 . 主な防除薬剤

薬 剤 名	薬剤の 系統	使用時期 (日)	使用回数	ナシ	ブドウ
アドマイヤー顆粒水和剤	ネニコチノイド*	3	2		
アクタラ顆粒水溶剤	ネニコチノイド*	1	3		
アルバリン顆粒水溶剤	ネニコチノイド*	1	3		
スタークル顆粒水溶剤	ネニコチノイド*	1	3		
ダントツ水溶剤	ネニコチノイド*	1	3		
ベストガード水溶剤	ネニコチノイド*	14	3		
モスピラン顆粒水溶剤	ネニコチノイド*	1	3		
スプラサイド水和剤	有機リン	7	3	有袋	
		45	2	無袋	
スミチオン水和剤40	有機リン	14	6	有袋	
		21	6	無袋	
ア - デント水和剤	ピレスロイド*	7	3		
アグロスリン水和剤	ピレスロイド*	1	3		
アディオン乳剤	ピレスロイド*	1	2		
スカウトフロアブル	ピレスロイド*	1	5		
テルスターフロアブル	ピレスロイド*	1	2		
マブリック水和剤20	ピレスロイド*	30	2		
ロディー水和剤	ピレスロイド*	1	2		
MR. ジョーカー水和剤	ピレスロイド*	14	2		

注 1) 農薬を使用する際は、ラベルの記載事項を確認する。

注 2) 桑園の近くでは使用しない。

注 3) ピレスロイド剤は、ハダニ類の発生を助長することがあるので注意して使用する。

.....
 防除所ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/tokyo>
 今後の予察情報にご注意下さい。
 E-mailアドレス S0200303@section.metro.tokyo.jp